



十中だより

令和2年10月2日
文責 奈加晃典

めざす生徒像

- ☆自ら進んで学び、考えて行動できる生徒(確かな学力)
- ☆勤労と責任を重んじ、礼儀正しく協力できる生徒(豊かな人間性)
- ☆自他の生命を尊重し、心身を鍛える生徒(健やかな体)

校訓

自主 協働 剛健

文化祭大成功でした

今年度はコロナウイルスによる感染予防の観点から、例年通りの開催は無理でしたが、テーマに掲げてくれていた「奮励努力」まさしくその通りのすばらしい文化祭であったと思います。

屋内での開催ということや、劇等の密になることがしにくいこと、合唱は果たしてできるのか等、色々な課題があり、当初は果たして文化祭自体できるのかという事も考えましたが、みなさんが様々な工夫をこらして考えてくれた結果、とても感動できる文化祭になりました。

あいにく1・2年生の保護者の方には見ていただけませんでした。各家庭にDVDを配布させていただくことで、ご了承いただきたいと思います。なお、肖像権等の観点から、あくまでご家庭での鑑賞に限っての使用にとどめていただきますよう、よろしくお願いたします。



さあ、次は体育大会です。半日開催であったり、競技にも制約がつかまとうなかではありますが、「全身全霊 正々堂々突き進め！」のスローガンの通り、当日は精一杯の自分を表現して下さい。

半沢終わる。。。

10回に渡って放映されていたテレビ番組の半沢直樹がとうとう終了となりました。32.7%という視聴率は、TBSのドラマでは実に13年ぶりの快挙だそうです。見られていたご家庭も多かったのではないのでしょうか。世間では半沢ロスという言葉まで飛び交っているそうです。

主人公である半沢直樹という型破りな人物の生き様に共感し、また憧れを持った人たちも多く、そのことも高視聴率の一因となっているのかも知れません。番組の宣伝をするつもりはないのですが、ここで「型破り」という言葉に着目したいと思います。

一般的に型破りな人というと、破天荒な生き方をしているような様子を指すことが多いとおもいますが、この言葉は歌舞伎などの芸能の世界で

よく使われる言葉です。

型を破るということは、滅茶苦茶なことをするのではなく、基礎基本は確実にそして忠実に勉強をし、まずは既存の形を習得する。それを踏まえた上で既存の物を変化させていくという意味です。

ややもすると、独りよがり自分の考えだけで突き進むようにも捉えられがちですが、それは「形無し」であって「型破り」ではないということです。

同じような言葉に、「守破離」(しゅはり)という言葉があります。

この言葉も芸の道に携わる方たちにとっては有名な言葉で、日本の音楽や茶道、剣道などの世界でよく使われます。

「守」 まずは、既存の教えや型、技を確実に習得する。

「破」 他の教えについても触れ、様々なものを取り入れて発展させる。

「離」 一つの教えから離れ、独自のものを生み出し完成を目指す。

というものです。



私自身も含め、みなさんの生活においても大事なことであると考えます。学校での学習面においては「どうしてこんな勉強が必要なんだろう?」「将来こんなことが役に立つのだろうか?」と思ったことはないですか?あるいは人間関係の部分でも、ややもすると、「自分の考えが正解で、みんながそれを理解してくれないからだ!」という気持ちになることもあるのではないのでしょうか。もちろん大人の社会にも多々あります。

そんな時に「型破り」「守破離」という言葉を思い出してみてください。

まず義務教育の間はどんな勉強であってもすべての基礎基本を身につけ、その上で高校や社会に出たときに、自分にとって必要なことを選択していくことが大事です。人間関係においても、人それぞれに考え方や感じ方は違って当然です。自分の意見が正しいという目線から入るのではなく、まずは人の意見や気持ちを考え、自分の意見と照らし合わせてみるということが大事なのではないでしょうか。

「型破り」・・・一見、破天荒で自分勝手に突き進むように聞こえがちですがその裏には、きちんと基礎基本を備えているからだという見方が大事です。半沢直樹さんも、サラリーマンとしてきちんと仕事をし、正しいことが見え、部下の信頼を得ているからこそその10倍返しなんですよね。